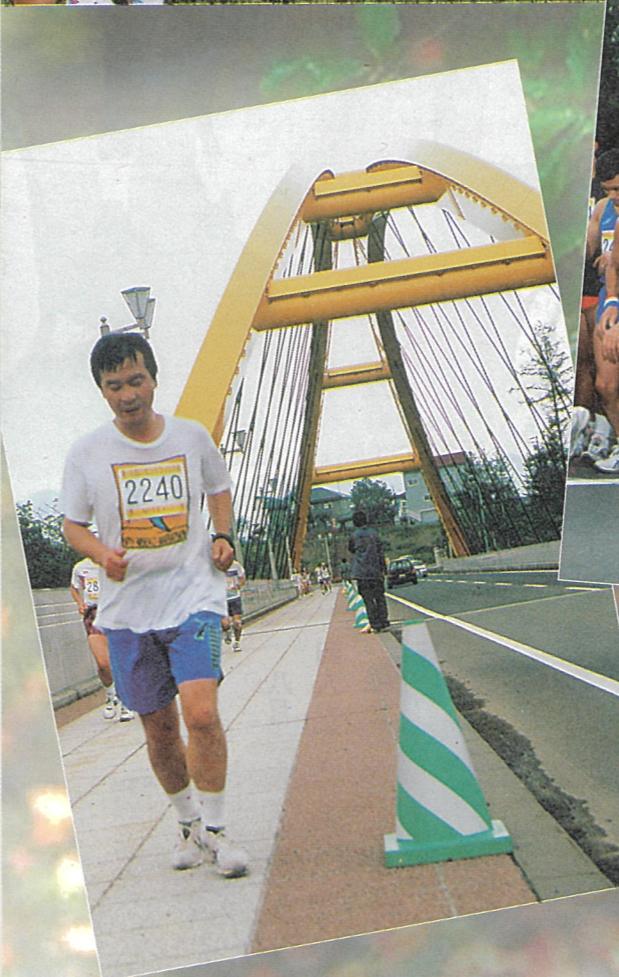


はばたこう ニセコ 21世紀へ

来年の開基100年に向けて  
町のキャッチフレーズが決まりました。



特集：都市の学生が見たニセコ  
お知らせ：国勢調査を実施しています  
：自衛隊生徒募集  
：産業まつり開催など



広報ニセコ10  
2000

## 彼らは町で、こんなことしてました(8月・9月)

21日(月)	・役場職員からニセコ町の概要を聞く
22日(火)	・福島県鹿島町のニセコ視察に同席し、町の説明を聞く ・研修内容の発表に備えて、それぞれ研修テーマの設定
23日(水)	・主要施設など町内視察
24日(木)	・ニセコで行われた、全国から集まる役場職員の研修会の受入れ手伝い (山間過疎地地域リーダー研修研究プロジェクトinニセコ) ・役場発行の予算説明書について職員と共に内容検討
25日(金)	・狩太神社祭を盛り上げるために、終日、みこしあつぎ
26日(土)	・山間過疎地地域リーダー研修研究プロジェクトinニセコに参加
28日(月)	・山間過疎地地域リーダー研修研究プロジェクトinニセコに参加
29日(火)	・山間過疎地地域リーダー研修研究プロジェクトinニセコに参加 ・尻別川でカヌー体験 ・議会への提案準備を進めている「まちづくり基本条例(仮称)」の打ち合わせに同席
30日(水)	・山間過疎地地域リーダー研修研究プロジェクトinニセコ反省会
31日(木)	・ニセコアウトドアセンター(工藤達人主宰)のお手伝い ・曾我神社のお祭りに参加。大変お世話になる。
1日(金)	・ニセコアウトドアセンター(工藤達人主宰)のお手伝い ・町を訪れた長谷川岳さん(よさこいソーラン祭の創始者)ほかと交流会
2日(土)	・研修発表準備のため町内調査や各種団体聞き取り調査 (ハンドベルサークル・おはなしの会など)
3日(日)	・研修発表の準備
4日(月)	・研修発表準備のため町内調査や各種団体聞き取り調査 (商工会青年部)
5日(火)	・役場内で研修を通じた発表会
6日(水)	・敬老会のお手伝い
7日(木)	・広報特集記事原稿執筆
8日(金)	・広報特集記事原稿執筆

今回の学生四人は、「若者の地方体験交流支援事業」という国土庁が行う事業に参加し、ニセコ町を訪れました。この事業は、三大都市圏(東京・名古屋・大阪)の学生を体験調査員にして、全國の地域に派遣するというものです。学生は、全国に派遣され、

### どこが行う、何を目的にした事業か

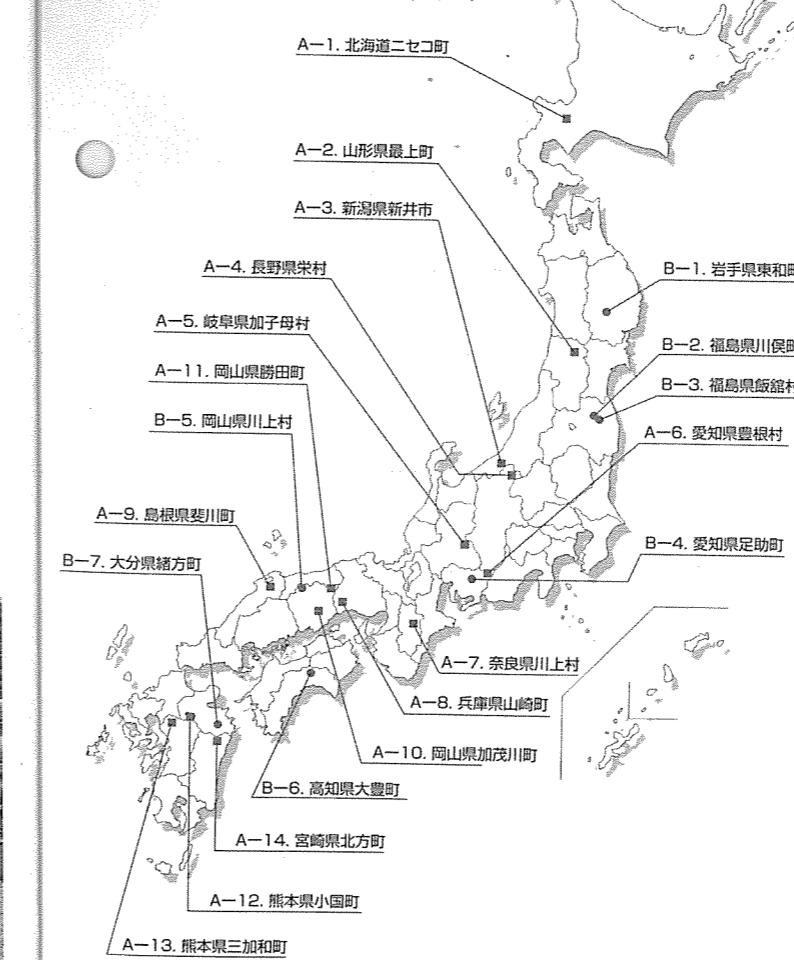
地域づくりのお手伝いや産業体験をします。そこで、若者に地方の良さを知つてもらうことが目的の一つ。また、受け入れる町では、交流などを通じて、学生のとらわれない視点や、新しい感覚を引き出し、町づくりに生かしていくというもう一つの目的があります。

全国二十一の市町村が受け入れ 國土庁が行うこの事業は、北はニセコ町、南は熊本県小国町の全国二十一の自治体が協力して、運営方法の検討や、学生の受け入れを実施しています(図1)。今年、参加した学生は全国で五十八人。それぞれの学生が、希望地を選択して派遣されています。



# 都市の学生が見たニセコ

学生受け入れ市町村(図1)



八月二十一日から九月八日まで、関東圏にある大学から、四人の学生がニセコ町を訪問。保育所前の独身寮で寝起きし、役場のさまざまな仕事を手取り調査をしたり、ときにはみこしをかついだり…。都市の大学から来た四人の学生が、約三週間の滞在で、この町の何を見、何を感じたか。今回は、彼らの、私たちに向けたメッセージを掲載します。

## ニセコのまちの体験アラカルト

▼おはなしの会、佐々木さんを訪問



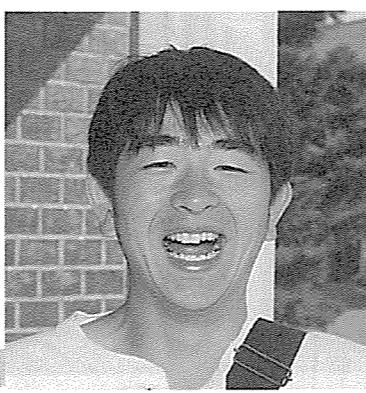
▲ハンドベルサークルの久保さんを訪問(聞き取り調査)



ニセコアウトドアセンターでカヌーツーリングの準備

△三週間の滞在を基本に、町づくりの提言

# ニセコの 生活風景



東京大学大学院

二セコでの二十日間の研修は役場職員との関わりが多かったが、どうしてこんなに頑張つてゐるんだろうと不思議に思うぐらいやる気満ちてた。今思えば、そのパワーの源は、ニセコが好きなんだということだ。つまり、町民一人ひとりの毎日の生活から築きあげられているニセコというものが好きなんだということだ。町民の方との接点は少なかつたが、その時の会話でもニセコが好きなんだということが感じられた。

最初にその言葉を聞いたのは、二七コに来た翌日だった。しかもこの言葉はおばあちゃんからだつた。公共交通機関も充実していい町のどこが住めば都なんだろうと疑問に思つた。羊蹄山、ニセコアンヌプリは綺麗だし、水や空氣もおいしい。でも、それだけで人は楽しく快適には暮らせない。

# 特集 都市の学生が見たニセコ



二七二を思い浮かべると人々の生活の営みと自然とが一体となつたすばらしさを実感した。風景もさまざまで、煉瓦造りの家やサイロ、広大な畑、山側のベンション、市街地の家々や町営住宅、サイン坂、二七〇大橋、小学生の野球の朝練、お父さんやお母さんの園児の送迎、祭、敬老会などニセコのいろんな人々の生活風景を見て、感じた。

また、冬の厳しさを感じ

の煙突や二重ガラス、灯油タンクなどもニセコの一つの生活風景として印象的だつた。人の生活を感じ取れるその風景の大切さは、ニセコに来て大きく感じた。

人々の生活が垣間見える町だから、とても安心してゆつたりと住むことができんだろうと思う。これからも、互いの生活を大切にさまざまな生活風景の見える町であつてほしい。そこで一つ思うのが、生きるためににはそのための業というものが必要で、<sup>なりわい</sup>生業がなくて、ニセコでは暮らせない人が多いのではないかと思ふ。

ぼく自身がニセコで生ま  
れていても、今のニセコに  
は暮らしていないだろうな  
と思う。ニセコで生まれ、こ  
のままニセコで暮らしたい、  
あるいはニセコに戻ってきて  
たいけど、働く環境がなく、  
ニセコの外に暮らさざるを  
得ない環境を少しでも改善

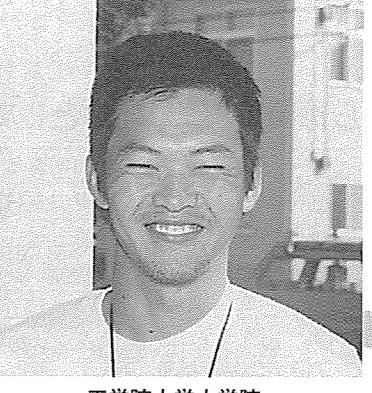
暮らしたいところで  
暮らせない

**若い芽を育てる」と  
いうこと  
が  
必要**

た。人の生活を感じ取れるその風景の大切さは、ニセコに来て大きく感じた。人々の生活が垣間見れる町だから、とても安心してゆつたりと住むことができるとだろうと思う。これらも、互いの生活を大切にさまざまな生活風景の見える町であつてほしい。そこで一つ思うのが、生きるためににはそのための業といふものが需要で、生業<sup>なりわい</sup>がなくて、ニセコでは暮らせない人が多いのではないかと思う。

た。暮らせないところでも暮らしたいところで暮らせない

## ニセコに住んで 感じたこと考えたこと



工学院大学 大学院  
石井 健一さん

**自然と人との出会いの連続**

僕は都内の大学に通う学生で、国土庁の事業の一環で、インターーン生として八月下旬にニセコにやってきました。三週間という長期間のニセコでの生活は自然と人との出会いの連続だったと思います。

**最初の出会いは羊蹄山**

見渡す限りの畑の中にドンと立っている羊蹄山は何とも不思議な感じがしました。山って普通、いくつもの山がつながっていますよね。僕の住んでる埼玉県の秩父連峰も、その先の八ヶ岳もアルプスもやっぱりつながってる。つながってないのは富士山ぐらい。形が似ているだけでなくてそんな特徴からも蝦夷富士って呼ばれているのかなあ。

**地方の人人は生き生きしている**

僕は役場で研修していたわけですが、たいした仕事もできないのでもっぱら体

最初の田舎では羊蹄山

見渡す限りの畑の中にドンと立っている羊蹄山は何とも不思議な感じがしました。山って普通、いくつもの山がつながっていますよね僕の住んでる埼玉県の秩父連峰も、その先の八ヶ岳もアルプスもやっぱりつながってる。つながってないのは富士山ぐらい。形が似ているだけでなくてそんな特徴からも蝦夷富士って呼ばれているのかなあ。

地方の人は生き生きしている

僕は役場で研修していたわけですが、たいした仕事もできないのでもっぱら体

生きている

僕は役場で研修していた  
わけですが、たいした仕事  
もできないのでもっぱら体

# 特集 都市の学生が見たニセコ



使ったお手伝いをさせていただきました。やつぱり大変だったのは、狩太神社祭のみこし担ぎです。一見軽そうにみえるみこしなのに実は重い、非常に重い。一日中担ぐと次の日は仕事にならないです。担いでいる人は毎年毎年ご苦労様です。みこしを担いでいるとが意外と多くて驚くのと同時に励みにもなりました。本当に嬉しいります。キツイですが結構楽しいです。一度だけなら…。

そんな風にして役場の人達と付き合っていくと、役場の人達同士は勿論、町の人たちも良く知つていて仲がいい、それは都会の暮らしにはなかなか無いものだなど感じます。それから山間過疎地リーダー研修でも全国の地方の役場から大勢やつてきて、話してみるとみな陽気で楽しい。過疎って大変なのかなと、漠然と思つてましたが、逆にみんな一生懸命で頑張つている。都會の人間は疲れちゃつて

ところで僕がニセコを歩き回つて見つけたお気に入りの景色があります。ニセコ大橋からみた昆布岳、尻別川です。なかなかきれいな景色です。車で生活しているとつい見落としてしまっているんじやないかな。まだ良く見ていない人がいたらぜひ一度見てみましょう。(歩道が無い側からのほうがもつと良く見えます。)

最後にお世話になつた関係者の方々、ニセコ住民の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

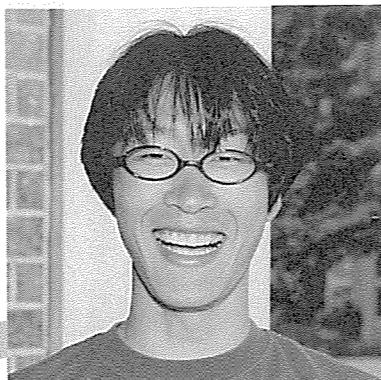
のにこつちは一人ひとりが  
バイタリティーがあり、な  
によりも生き生きしている。  
そのほかアウトドアセンタ  
ーで研修、ラム工房見学な  
どを通して町長をはじめと  
してなかなかニセコには面  
白い人達がいるなど感じま  
した。またその人達が見え  
やすいことが二七コの町の  
いいところじゃないかな。  
都会だと人が多すぎていい

す。それはゴミの分別が都  
市に比べて遅れていること  
です。燃えるごみと燃えな  
いごみ、それを入れる袋の  
区別、認識が甘いなど感じ  
る事が結構ありました。も  
ともと都市なんかに比べて  
ごみの量が少ないのでしょ  
うが、そのことがかえつて  
ごみ問題に対する意識を鈍  
らせて いるのでしょうか。

電子メールアドレス  
skoichi@tkd.att.ne.jp

お寄せください。 気軽にご意見、ご感想を

# 住むということ



千葉大学大学院  
渋谷 高陽さん

人が住まう・生活をする  
ということをことあるごと  
に意識して勉強してきた。  
でも自分自身の住まうとい  
うことを考えたのは初めて  
だった。それは今、僕の中  
でもうまく言えないのだけ  
れど、このニセコでの二週間  
とちよつとの滞在のなか  
で関わったことや感じた印  
象をつらつらと書いてみる  
ことで、何か分かることが  
あると面白いと思う。  
ニセコに来てまずははじめ

「いいえ、この辺に住んでるんですよ。タクシーの運転手さんにそう答えてから、何となく違和感を感じている自分を発見する。僕は本当にニセコに住んでいるのだろうか。ニセコに滞在して二週間という時間はたぶん、住んでいると言うには短すぎる。しかし、とつさに「住んでる」と口から出したことには、やはり意味があるのではないだろうか。このような疑問を持つのは、僕が千葉で建築やまちづくりを勉強していることと無関係ではないと思う。

# 特集 都市の学生が見たニセコ



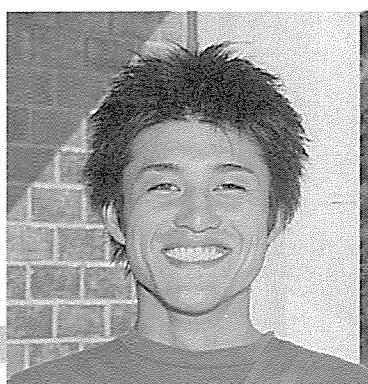
激になつた。もちろん精神的にである。肉体的には良い刺激どころではなく、次の日は落とした箸を拾うのも億劫になるほどだつた。

アウトドアセンターで裏方としてニセコの自然に接したことなどはとてもよかつた。

自然を楽しむためには、思つた以上に大変な準備と謙虚さが必要であることを感

に関わったのは役場の会議だった。僕はニセコに対してその先進的な取り組みから、行政が柔軟で活発であるというイメージをもつて来た。やはり活発で自由な話し合いが行われていて、僕たちにも自由な発言を求めてくれるくらいであつたし、学生の意見でもちゃんと考へてくれていることが印象的だった。もうひとつ印象的だったのは自分たちのために話し合いをしているということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これるということだった。これる

# 自分を「試す大地」 北海道



立教大学  
佐野健太郎さん

両編成の電車に僕は一人揺られていた。クーラーの効かない混雑した車内の一一番後ろで、これから始まる体験を考えていた。この時の気持ちは期待の方がはるかに不安を上回っていた。

二時間後、ニセコに着き滞在する職員寮の部屋で、落ち着いたとき、急に不安がやつてきた。今回、インターん参加の理由の一つに積極的にいろんな人に話しかけようという目標があった。その不安が訪れたのであつた。しかしひニセコになれるにつれ、その不安は解消した。

## 初めての北海道

ニセコに来て最初の数日は自分の足や役場の人の案内でニセコを見て回った。そのとき一番感じたのは北海道はやはり北海道だった。それは今までイメージしていたものが目の前に広がつ

初めての北海道

最初の数日  
場の人への案  
て回った。  
したのは北  
海道だった  
ページして  
前に広がつ

# 特集 都市の学生が見たニセコ



インターの最初の活動はまちづくり基本条例会議への出席。そこでは役場の各課の垣根を越えて人が集まり、自分のまちづくりに対する思いを自由に語っていた。ほんの六、七人の小さな輪のなかで町の条例の土台を築く。そんな壮大な仕事に魅力を感じる一方、役場の中でも何をしているのか知られていないという事実に役場の人々にさえ情報が公開されていないものもあるのかという不可解な気分にもなった。

不可解な気分になつたといえど、狩太神社のお祭りで役場のみこしを担いだことだった。聞く人、聞く人『あれを担ぐのかあ？まあ、がんばれよ』とそれ以上口を開こうとはしない。誰に聞いても多くは語らない。何か不穏な空気さえ感じたその理由を改めて実感した

「二セコには変な人がいつた。」  
三週間弱という長いようで短い間で、これほどまでに多くの人と接し、多くのことを感じたことは初めてだった。とても内容の濃い体験だった。そんな気持ちになるのは二セコにはいろんなへんな人が多いからではないだろうか。僕らの受け入れにあたって、お世話になつた役場の佐々木さんが前にこんなことを話され

うんだから間違いない」。  
僕はこの言葉が今になって良く実感できる。おそらく佐々木さんは変わり者が多いと言いたかったのだろうが、僕はこれだけではないと思う。確かに変な人はいっぱいいた。いい意味で変わっている、個性豊かな人のことだ。こんな編な人もいた。それは役場の人をはじめ、色々な活動を通して人と人を結び付け（編む）、組織する人のことである。

ニセコではこの編な人が結構いる。もうひとつは辺な人である。底辺、つまり縁の下の力持ちというべきニセコを支える人である。この辺な人は潜在的に隠れている場合が多い。これらへんな人がこれからニセコにどんどん増え、また一人ひとりがいろんなへんな人になれば、もつともつと面白い町になると思う。インターネットを通して学んだことをこれからも忘れず、またいつかニセコに遊びに来たい。

曾我神社でのお祭りはちょっとと圧倒されてしまった。あるようなお祭りは初めて見た。不思議体験だつた。

最後は町民活動などを行つてゐる人たちのお話を聞いたことである。僕はこれが一番樂しかつた。実は僕がこのニセコに来て知りたかったことは町民の暮らしである。ニセコは行政においては先進的な取り組みをしているが、町民は楽しんで生活をしているのだろうかということを知りたかった。そういう意味では今回のニセコ滞在は、僕にとって十分に満足出来るものではなかつた。これは僕がこれからいろいろなところを訪れたときの反省としなければならない。しかしこの人たちから話を聞き、楽しんで暮らしている人がたくさんいることを知つて、僕も楽しかつた。新しい発見や驚きの連続で話し込んでしまい、少々時間をオーバーしてしまつたことをこの場を借りてお詫びします。

さて、僕がとつさに「住

「んでいます」と言い、そのことに違和感を感じたことであるが、たぶん単純な理由としては二週間ちょっとという時間は短すぎるので、役場の独身寮という生活感あふれる場所で生活していたのでそのようなことを感じたのだろう、ということも言える。でもうまく言えないのだけれど、ニセコで暮らしている人たちと接して自分なりに考えたことは、住むというのは、「能動的に自身の生活を創造する」ということなのかもしれない。特に住まうことを探しむということでは、そういうことが大切であると感じた。だから僕はニセコで二週間経つたときに、これまでの役場から与えられる受け身のプログラムではなく、もう少し積極的に自分の行動を起こそうとしていたのだと思う。そのちょうど変わり目だったから「住む」と言つても違和感を感じたのだろう。

みなさんは住む・住まうということにどんな考え方を持っているのだろうか。



自分のつくったカヌーで  
川くだりをしてみたい



No.58

輝いてるね、この人  
ニセコアウトドアセンター  
佐竹 忠勝さん(中央5)

みんなに救命法を身につけてほしい

を行っています。

八月二十三日は、ニセコ中学校で、心肺蘇生の講習会を開きました。各学年ごとに実地講習が行われ、生徒たちは真剣に講習を受けました。



に尻別川の蘭越付近、危険の少ない場所です。だからといって決して気は抜けません。お客様の安全が第一ですから。反面、厳しい顔をしたら、お客様は不快になります。毎日乗れていれば、ツアーを終えたときの言葉を聞くと、ホッとするんです。不安を与えて、ツアーを終えたときの言葉を聞くから」。

スタッフは、毎年消防で救急救命の指導を受け、また危険回避のための資格を取得するなど、安全対策には余念がないようだ。最後に「自分でカヌーをつくり、ゆったりと川を下ってみたい」と、ニッコリ笑つて答えてくれた。

二七コ消防では、事故など、いざというときのため、「救急救命法」の講習会を行っています。救命法を学んでみたい方は、ニセコ消防へ気軽に問い合わせください。

訪れた人にニセコの自然を楽しんでもらう会社として、平成七年に設立されたのがニセコアウトドアセンター(工藤達人さん主宰)。佐竹忠勝さんは、ここスタッフとして三年目を迎えた。登山や釣りなど、ニセコの自然を満喫できるメニューがそろう中、彼の主な担当はカナディアンカヌーで川をくだるガイドだ。

「去年は無かつた所に今年は水の流れがある。川は毎年、姿を変えています。でも、そんなこと、この仕事をするまで知らなかつた」

「案外、地元でも、以前の僕のように自然を知らない人が多いんじゃないかな。子どもの中は、川で泳ぐのも禁止だつたし。この仕事を始めて、ニセコの魅力を再認識しています」。

ガイドは気を使う仕事? 「お客様に『ああ楽しめた』に乗れて」と言われます。そこには、楽な仕事でいいね、という意味もある。でも、それは、僕にとってほめ言葉。カヌーをするのは主

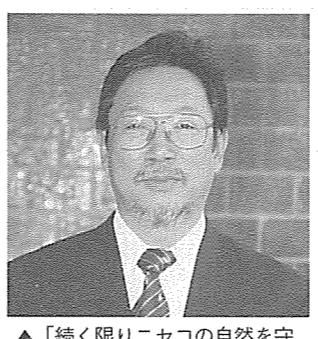


▲ツアーに参加したみなさんと(本人左から3番目)

自然保護観察員。その活動は、一年をとおして動植物の保護やごみの不法投棄、散乱防止、活動報告書の作成など多岐にわたります。この度、この自然保護観察員を二十年間努め、ニセコ山系の自然を見守り続けてきた荻野勝男さん(本通三)に対し、北海道知事から北海道社会貢献賞が贈られました。

荻野さんは、この二十年間の生活排水による川の汚れの変化を指摘し、「残された人の手の着いていない自然をいかにして守り続けるかが大事ですね」と話されていました。

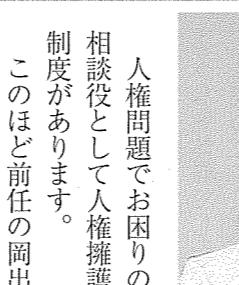
**永年の自然保護活動に貢献**



▲「続く限りニセコの自然を守っていきたい」と荻野さん



▲「慎重かつ的確に判断して、相談に乗りたいです」と大橋さん



▲「慎重かつ的確に判断して、相談に乗りたいです」と大橋さん

## 人権擁護委員に大橋百合子さん

## まちの事件簿

ニセコ町防犯協会・俱知安警察署(☎22-0110)

### 盗難事件

**店舗荒らし発生** 8月30日午後3時ごろから午後6時30分ごろまでの間、町内の商店で、店主が奥の住宅にいた間に、店内のレジスターから現金が盗まれました。

**土木工事用機械盗難** 9月6日午後6時ごろから7日午前7時ごろまでの間、字福井の国道5号線路肩拡幅工事現場のシャッターハウス内から、工事用の土木機械1台が盗まれました。近隣町村でも同様の盗難事件が多発していますので要注意です。

**車上狙い** 8月31日午後0時30分ごろから9月1日午前8時30分ごろまでの間、町内の温泉施設の駐車場で、駐車していた乗用車の助手席の窓ガラスが割られ、車内からカバンなどの貴重品が盗まれました。

### 交通事故

**判断ミス衝突** 8月31日午後8時ごろ、町内の道交差点で、走行中の乗用車が前方交差点の信号が赤色点滅していたため、交差点手前で一時停止し、左右の安全確認をした際、右方向からの走行車両を確認し、自車両の発進に危険がないと判断して発進したところ、進行してきた車両と交差点内で衝突する事故が起きました。

**脇見運転路外逸脱** 8月30日午後11時40分ごろ、字羊蹄の国道5号線の右カーブで、時速約60kmで走行中の乗用車が左路肩ガードロープに衝突、路外に逸脱する事故が起きました。運転手の脇見が事故の原因と見られます。

### 薄暮時にはよりいっそうの安全運転を

日付	場所・催事	そかぜ通信4チャンネル放送番組の歌手名など。
1日(日)	教育委員会議／公：9:30～	ニューミュージックベストヒットコレクション5代 夏子
2日(月)	第45回まちづくり町民講座／町：19:00～	ザ・ビーナッツ ピーター・ボール&マリー
3日(火)	粗大ごみ収集	伊奈かっぺい
4日(水)	粗大ごみ収集	堀内 孝雄
	歯科検診・フッ素塗布／町：13:00～	同 上
	粗大ごみ収集	同 上
	秋のクリーン作戦／役：9:00出発	同 上
	健康相談／西富：10:00～	同 上
6日(金)	後志支庁管内育樹祭／町：9:30出発	倍賞千恵子
7日(土)		谷山 浩子
8日(日)		美空ひばり
9日(月)	体育の日	落語(1～8)
	健康体力づくり教室／体：9:00出発予定	同 上
10日(火)	健康相談／保：13:30～	同 上
11日(水)	資源ごみ収集	野口 五郎
	おばんです町長室／町長室：18:00～20:00	オフ・コース
	歯科検診・フッ素塗布／町：13:00～	同 上
	資源ごみ収集	桂 銀淑
12日(木)	寿大学・蘭寿大学交流会／公：8:30出発	同 上
	リハビリ教室／体：10:00～	同 上
	全町小中学生マラソン大会／体：開会式13:30～	ベスト・オブ・ディズニー
14日(土)	一房のぶどうまつり／有島：時間未定	山本 譲二
15日(日)		グレン・ミラー
16日(月)		野口 五郎
17日(火)	リカレント講座／町：18:30～	オフ・コース
18日(水)		同 上
19日(木)		桂 銀淑
20日(金)		松山 千春
21日(土)	ニセコ町産業まつり／町：11:00～	同 上
22日(日)	文化まつり・詩歌吟道大会／町：10:00～	同 上
23日(月)		イーグルス
24日(火)	乳幼児健康診査／町：13:00～	宗次郎
25日(水)	無料法律相談／町：13:00～16:00	高橋 真梨子
	資源ごみ収集	同 上
26日(木)	住民結核検診／(東部・南部方面)：9:00～	同 上
	市街地18:00～	嘉門 達夫
	資源ごみ収集	せせらぎのハープ
27日(金)	住民結核検診(川北・市街地)／9:00～16:00	
28日(土)		
29日(日)		
30日(月)		
31日(火)	文化まつり・児童展(11月3日まで)	

■公=公民館 ■西富=西富地区町民センター ■保=役場保健室 ■町=町民センター ■陸=陸上競技場 ■体=総合体育馆 ■ふ=ふよう荘 ■有島=有島記念館ほか

★総合体育馆の一般開放は毎週水曜日、土曜日と日曜日です。

水曜日：午後7時から10時

土曜日：午後1時から10時 日曜日：午前9時から午後5時

## そよかぜ通信の内容をホームページで知りたい

自宅の電話をISDN回線に変更しました。すると、そよかぜ通信を継続して聞くには別途数万円のモデルの購入が必要だと聞き、そよかぜ通信を取り外しました。

今、思うとそよかぜ通信は貴重な情報源でした。そこで、町のホームページも充実している様子ですし、そよかぜ通信の情報をホームページで知ることができます。

町では現在、コンピューターの画面などでご覧いただけます。町のホームページを開設しています。主な内容は観光情報ですが、町内で放送している「そよかぜ通信」の内容と「広報ニセコ」を十月一日から掲載しています。暮らしの情報として、ご利用ください。

ホームページのアドレス

は「広報ニセコ」の裏表紙

に掲載しています。

(町民総合窓口課長

福田房三)

## お答えします

(近藤地区 女性)

全道意見発表・公開競技の家畜審査（乳牛の部）競技参加報告です。八月下旬に幕別町で意見発表が行われ、地区・本校代表として北村さんがB部門に出場しました。結果は、最優秀位を獲得し、北海道代表として全国大会の出場権を得ました。

また、全国大会では、公

開競技として「家畜審査競

技（乳牛）」が行われます。

口蹄疫の問題で大会開催が危ぶまれましたが、とわの森三愛高校で開催されました。この大会に本校代表として夏休みを返上して取組んでくれた西湯さんが出場。生憎の雨天で審査は難航。また、審査牛も混乱を招くような個体群でしたが、みごと優秀位に入賞しました。全国大会への権利をゲットするまでには、残念ながら至りませんでしたが、大会

最後に、共進会では多くの酪農家、各団体の方々にアドバイスをいただき本当にありがとうございました。

参加クラブ員全員が入賞できました。

## 『全国大会へ!!』

農業クラブ会長

佐藤香緒留

今回、全国大会（開催地は南の先端、宮崎）へ三人のクラブ員が出席します。

農業鑑定の農業の部に三年佐竹さん、生活の部に三年若山さん、生活の部に三年

は二年北村さんが参加します。本校・北海道の代表として頑張ってくれるはずで

町民総合窓口課広報広聴係まで  
**☎44-2121**  
Fax44-3500

## ニセコ高校農業クラブコーナー (ニセコ高校の活動を地域のみなさんに知ってもらいたい)

また、全国大会では、公開競技として「家畜審査競技（乳牛）」が行われます。口蹄疫の問題で大会開催が危ぶまれましたが、とわの森三愛高校で開催されました。この大会に本校代表として夏休みを返上して取組んでくれた西湯さんが出場。生憎の雨天で審査は難航。また、審査牛も混乱を招くような個体群でしたが、みごと優秀位に入賞しました。全国大会への権利をゲットするまでには、残念ながら至りませんでしたが、大会



## みんなのご意見をお寄せください

みなさんが日ごろ感じている、町への意見や疑問をお寄せください。

また、回答を必要としない「エッセイ」的なものもお待ちしています。みなさんに共通するような意見や話題は、ご本人の了解をいただいた後、この『私たちのひろば』で紹介する場合があります。希望される場合は匿名とします。

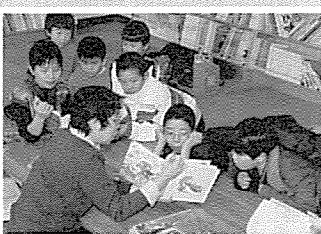
また、広報紙に掲載できなかったお便りにも、お名前のある限り、返事を差し上げます。

これからもどうぞご利用ください。  
「私の意見」の用紙は、切り取ってのり付けをすると、そのまま郵便として利用できます。郵便料は町が負担しますので、切手などは不用です。用紙がない場合は、役場窓口に用意してあります。どしどしお寄せください。(最近では8月号広報に入っています)

(町民総合窓口課広報広聴係担当=山本・青木)

## おはなしの会からのお知らせ

- 日時／10月26日(木) 2時15分から3時15分
- 場所／町民センター2階図書室内“絵本の広場”
- 内容／牛乳パックでからくり絵本をつくってみよう！
- 問合せ／佐々木真理 ☎44-2098



誰でも自由に来て、絵本を楽しむことができます。  
気軽に遊びに来てね。

## サークル紹介

### ニセコ短歌会

- 短歌の世界にふれてみませんか。初めての方でも、大歓迎です。今は、11月の町の文化祭出展に向けて短歌づくりに励んでいます。また、会員の作品は、広報紙で紹介しています。
- 例会／毎月第3金曜日 午後7時から
  - 場所／町民センター談話室
  - 会員／6人
  - 会費／必要に応じて集めています。
  - 問合せ／岩田稔雄 ☎44-2657



## 図書館への夢を語ろう⑥

「私たちこんな図書館がほしいです！」

- ちょっとした遊び場がほしい。天井と床がつながっている鉄棒など。(小6 男子)  
PS 実は私も児童図書コーナーに木のおもちゃを置いてほしいと思っていました。ちょっと欲ばかり…(母より)
- 今の図書室はひとりでいるところなので、いつもだれかいてくれるといいです。(小6 女子)
- パソコンがほしい。自由な用途で使いたい本がさがせるみたい。

図書館を現代的なデザインにしてほしい。親切な受付のおねえさんがいてほしい。おばさんでもおばあさんでもいい。(中1 女子)

●CDやDVDがある図書館がほしい。(中3 男子)

子供たちの図書館に対する期待も大きく膨らんでいるようです。

素敵な図書館ができるといいですね。

図書アジャスト俱楽部

- 問合せ／佐々木静子 ☎58-3162

## グリーンアース・ニセコ

8月はお休みをいただき、9月は廃油石けんづくりを勉強しました。

そこで10月は、21日の産業まつりの一角を借り、元にもどって『エコマーケット』『EM菌のバケツ』『廃油石けん』の実演・販売を行う予定です。

21世紀を目の前にして、日本中いや世界中で自分達が作り出した物の処理に困っていますが、近い将来、きっと環境に負荷のかからない循環型社会となるよう期待して、今私達が出来るReduce・Reuse・Recycle(持ち込みない・再利用・再資源化)に心がけたいものです。

グリーンアースは、そのような事を実践していきたい人達の集まりです。

興味のある方大歓迎！

まだ歩んでいるとは言えないかもしれないで、一緒に立ち止まって考えてみませんか？ 連絡先 ☎44-2612 松田裕子

